

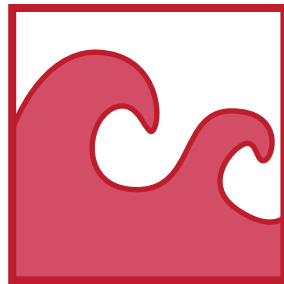
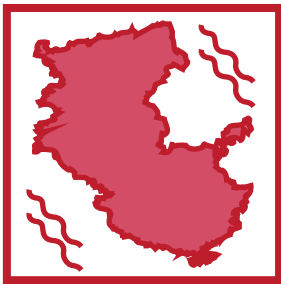


防災講演会

地域を守り抜く力！

— 災害に強い紀伊半島を共に —

in 和歌山市



平成23年の東日本大震災と紀伊半島大水害はこれまでの災害対策を根本から見直すきっかけになりました。これらの災害対策は、想定外の自体が起こることを前提にすることが必要です。また、災害対応をより効果あるものにするためには、「災害に強いまちづくり」と「災害に強いひとづくり」を密接に結びつけて取り組んでいくことが望めます。そこで、山間部が多く海岸線が長い紀伊半島に適した防災技術の開発や、防災教育、防災計画に関する最新の研究事例の紹介を通して、災害に強い紀伊半島を一緒に考えるための講演会を開催いたします。皆様の参加をお待ちしています。

2014年9月20日(土) 13:00-16:20
※受付は12:30から

**会場：県民交流プラザ
和歌山ビッグ愛 大ホール**

〒640-8319 和歌山市手平 2丁目 1-2

定員：100名 参加費：無料

※事前申込は不要です。会場まで直接お越しください。



JR和歌山駅下車、西口より徒歩約15分

13:00 開会挨拶

平田健正(和歌山大学理事・地域創造支援機構長)

Session1 講演

- 13:10 災害から命を守る防災教育 此松昌彦(和歌山大学 教育学部 教授)
- 13:35 住民参加による防災まちづくり：和歌山市砂山・今福地区の事例
小川宏樹(和歌山大学 システム工学部 准教授)
- 14:00 災害に備える情報通信技術 塚田晃司(和歌山大学 システム工学部 准教授)
- 14:25 地震で起こる地盤“液状化”のしくみと被害 林和幸(和歌山工業高等専門学校 准教授)
- 14:50 質疑
- 15:00 休憩

Session2 実演&展示&ポスター

- 15:15 (実演) 遠隔からの斜面災害前兆検知・インフラ構造物の健全評価システム
藤垣元治(和歌山大学 システム工学部 准教授)
- (実演) 災害対応のためのロボット技術 徳田献一(和歌山大学 システム工学部 助教)
- (実演) 毎日使おう！災害時支援システム 吉野孝(和歌山大学 システム工学部 教授)
- (実演) センサデータ共有のための分散データベースの構築
満田成紀(和歌山大学 システム工学部 准教授)
- (実演) 地震で起こる地盤“液状化”のしくみと被害
林和幸(和歌山工業高等専門学校 准教授)
- 後誠介(和歌山大学 防災研究教育センター 客員教授)
- (ポスター&展示) 避難所パーティション, ペール缶コンロ, JAXAプロジェクト等
今西武(和歌山大学 防災研究教育センター 客員教授)
- 片家康裕(和歌山大学 防災研究教育センター 客員准教授)
- 栗将倫(和歌山大学 防災研究教育センター 客員准教授)
- (ポスター) 平成23年台風12号による豪雨災害 江種伸之(和歌山大学 システム工学部 教授)
- (ポスター) 災害に強い情報通信技術の開発 塚田晃司(和歌山大学 システム工学部 准教授)
- (ポスター) 情報通信技術(災害記事データベース) 村川猛彦(和歌山大学 システム工学部 講師)
- (ポスター) 鉄鋼構造物の安全を守る超音波応力計測システムの開発
村田頼信(和歌山大学 システム工学部 准教授)
- (ポスター) 鉄道乗車中、津波から避難するためには
西川一弘(和歌山大学 地域連携・生涯学習センター 講師)
- (ポスター) 地域で備える木造仮設住宅 平田隆行(和歌山大学 システム工学部 准教授)
- (ポスター) 津波浸水時における避難場所としての寺社の利用可能性
山本祐吾(和歌山大学 システム工学部 准教授)
- (ポスター) 豪雨に伴うダム流木問題とその対策 吉田登(和歌山大学 システム工学部 教授)

16:15 閉会挨拶

此松昌彦(和歌山大学 教育学部 教授)

問い合わせ先：和歌山大学防災研究教育センター(〒640-8510 和歌山市栄谷930番地)
TEL: 073-457-7558 Email: bousai@center.wakayama-u.ac.jp

主催：和歌山大学防災研究教育センター

「想定外」豪雨による地盤災害への対応を考える調査研究委員会

((公社)地盤工学会関西支部/(一社)日本応用地質学会関西支部/関西地質調査業協会/中部地質調査業協会合同委員会)

共催：(公社)地盤工学会関西支部/(一社)日本応用地質学会関西支部/関西地質調査業協会/中部地質調査業協会

後援：和歌山県/和歌山市/和歌山県教育委員会/和歌山市教育委員会/和歌山県社会福祉協議会/西日本旅客鉄道(株)和歌山支社(予定)

本講演会は、平成26年度和歌山大学独創的研究支援プロジェクトおよびJSPS科研費25242037の支援を受けています。